

# 事業報告書

令和5年度

【令和5年4月1日～令和6年3月31日】

学校法人 岡部学園

## 1. 法人の概要

《名称》学校法人 岡部学園【昭和53年3月31日法人設立】

《住所等》大阪市旭区高殿4丁目6番12号

電話番号 06-6951-5205  
ファックス 06-6951-5360  
ホームページ www.wakabakids.ed.jp  
メールアドレス wkb@vesta.ocn.ne.jp

### 《設置する学校》

学校の名称：西高殿若葉幼稚園／定員：160名 実員：106名

代表者名：理事長 岡部宏明

\*理事6名 評議員13名 監事2名 理事会4回開催 評議員会4回開催

<役員改選：令和5年12月22日～>

\*理事5名 評議員11名 監事2名 理事会2回開催 評議員会2回開催

### 《教職員の状況（令和5年度末時点）》

教職員数 常勤13名 非常勤4名

## 2. 事業の概要（令和5年度 西高殿若葉幼稚園の概要）

### 《教育方針》

人や生きものを慈しむ心、旺盛な好奇心、物事に取り組む意欲、最後まであきらめないねばり強い心など、自ら育つ力を日々の保育において、また、遊びや行事を通じて、ルールや人との関わり合いを学びながら、心身ともに健やかに成長できるよう日々の保育にあたる。

### 《教育内容》

幼児期の基本的な生活習慣、集団生活でのきまりを学ぶとともに、幼児期が生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期であることから、日常の保育活動、年間行事を通じ、それぞれの子どもの特徴を生かした保育を行う。

### 《学年・定員・実員(内訳)学級数》

<各年度5月1日現在の数値>

年度	3歳児	学級数	4歳児	学級数	5歳児	学級数	学級数計	園児数計
定員	20名	1	70名	2	70名	2	5	160名
R03年度	36名	2	35名	2	41名	2	6	112名
R04年度	37名	2	36名	2	33名	2	6	106名
R05年度	34名	2	37名	2	35名	2	6	106名

### 《保育時間》

- 開園時間：午前8時00分～午後6時30分
- 月・火・木・金曜日：午前9時～午後2時30分
- 水曜日：午前9時～午後2時
- 土曜日：休園
- 給食日：月・火・水・木・金曜日

### 《納付金》

- 基本保育料：無償化により基本保育料の負担額無し
- 特定保育料：年額 60,000円（3,4,5歳児とも月額5,000円を12カ月割均等納付）
- 給食費：週5回 6,160円／月（22日の場合）
- 園バス維持費：3,000円／月(利用者のみ)
- 保護者会費：800円／月(年額9,600円を4月時に一括徴収)

## 《入園時の費用》

- 入園料：70,000円（3歳児）  
：70,000円（4歳児）  
：70,000円（5歳児）
- 検定料：5,000円

## 《預かり保育と費用》

- 月～金曜日：午後2時30分～午後6時00分迄（水曜日は午後2時～午後6時00分迄）  
利用料金：保育有料後～午後5時迄(1日700円) 午後6時迄(1日900円)
- 早朝預かり（am8:00～am8:30）早朝預かり実施日（月～金）
- 延長預かり（pm5:00～pm6:30）延長預かり実施日（月～金）
- 夏休み及び長期休業中：午前8:30～午後6:00・6:30（年間35日実施）  
利用料金：1回1,500円～1,800円

## 《行事実施状況》

- 4月／進級式・入園式・避難訓練・誕生会
- 5月／園外保育（各学年）・避難訓練・誕生会
- 6月／歯科検診・健康診断・保育参観（各学年）レッツカーニバル①・避難訓練
- 7月／誕生会・水あそび・七夕・個人懇談会・宿泊保育（年長）・終業式
- 8月／夏休み・夏休み預かり保育・夏期保育
- 9月／始業式・避難訓練・誕生会
- 10月／運動会・いもほり遠足・動物園遠足（年長）・レッツカーニバル②
- 11月／園外保育（各学年）・避難訓練・海遊館遠足（年長）・誕生会
- 12月／表現発表会①・個人懇談会・クリスマス会・終業式・冬休みかり保育・冬休み
- 1月／始業式・お買い物会
- 2月／作品展・節分豆まき・表現発表会②
- 3月／誕生会・人形劇観劇・お別れ遠足（年長）・卒園式・修了式・春休み預かり保育

## 《施設関係》

園地面積 890㎡ 運動場面積 720㎡

## 《設備関係》

- 外部樋補修工事 ○園庭整備（樹木剪定） ○鉄部クッションコーティング
- PC等機器の更新 ○遊具木部箇所修繕 ○非常灯
- スクールバス置き去り防止装置（府補助対象）

## 《借入金関係》

なし

## 《事業報告》

令和5年度は、新型コロナウイルスにより3年間続いた様々な活動制限の解除により、園においても従来の日常を取り戻し、子ども、先生、保護者との密接な関係を築き、良質な教育・保育を提供することができた。園児数においては令和4年度と同数であったが、依然続く園児減においても、教育・保育の質を担保するため、また、人的面において手厚い配置を行うため、人件費率は依然高いものの経費の節減に努め、一部積立保険金の解約を行った結果、収支は若干のプラスとなった。ただ、現状維持ではプラスに転じるどころか更なる園児減、人件費の増大、諸物価の高騰など、今後の経営に大きく影響を及ぼすため、令和7年度からの幼稚園型認定こども園移行に向けての意思決定を行い移行申請を行った。